

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期 月3.4	教室名	302
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師として医療に携わるに当たり、解剖学の知識の習得は欠かす事の出来ないものである。適切な施術をするのに、人体の場所を理解出来ていないようでは患者様の信頼を得ることは出来ない。そのため骨・筋の理解を中心として授業を展開していく。骨は部分の名称だけではなく、靱帯、関節の運動までの理解を目指し、筋は教科書に出てくる筋の起始・停止の暗記を目指していく。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験及び小テスト、レポート等で判定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学 改訂第2版 医歯薬出版株式会社						
《授業外における学習方法》						
各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。						
《履修に当たっての留意点》						
復習をしっかりしておく。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	総論を理解出来るようになる		上記教科書	
		各コマにおける授業予定	骨の役割と骨の連結			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊柱の役割を理解出来るようになる		上記教科書	
		各コマにおける授業予定	脊柱の名称と関節名称			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊柱の役割を理解出来るようになる		上記教科書	
		各コマにおける授業予定	脊柱の名称と関節名称			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる		上記教科書	
		各コマにおける授業予定	上肢帯の名称と関節名称			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる		上記教科書	
		各コマにおける授業予定	上肢帯の名称と関節名称			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになるようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由上肢骨の名称と関節名称		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由上肢骨の名称と関節名称		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	上肢骨まとめ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢帯の名称と関節名称		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢帯の名称と関節名称		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由下肢骨の名称と関節名称		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由下肢骨の名称と関節名称		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢骨まとめ		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭蓋骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	頭蓋骨の名称と関節名称		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭蓋骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	頭蓋骨の名称と関節名称		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名		柔整基礎実技Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	前期 金3.4	教室名	実技実習室2
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復学・総論及び、柔道整復各論Ⅰ・Ⅱで学んだ上肢の損傷に対する評価法・整復法・固定法・後療法についての実技を学ぶとともに座学にて上肢の損傷の復習を行う。							
《成績評価の方法と基準》							
実技および筆記試験、小テスト、レポート等で評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学 理論編 改訂第7版（南江堂） 柔道整復学 実技編 改訂第2版（南江堂） 運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版(メジカルビュー社)							
《授業外における学習方法》							
教科書及び配布資料をよく読み、特に復習に力を入れること。実技は繰り返し練習をしなければ身につかないため、学生同士での練習が不可欠である。							
《履修に当たっての留意点》							
柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容をしっかりと復習しておく必要がある。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	授業の概説の説明を行い授業内容の理解と、柔道整復学各論の復習し理解を深めることができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	基本包帯法を復習しておく。	
		各コマにおける 授業予定	オリエンテーション 上肢の損傷①				
第2回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	柔道整復学復習し理解を深めることができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	基本包帯法を復習しておく。	
		各コマにおける 授業予定	上肢の損傷②				
第3回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	定型的鎖骨骨折について復習を行い再度鎖骨骨折について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	定型的鎖骨骨折について復習しておく。	
		各コマにおける 授業予定	定型的鎖骨骨折①				
第4回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	定型的鎖骨骨折の整復、固定法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	定型的鎖骨骨折について復習しておく。	
		各コマにおける 授業予定	定型的鎖骨骨折②				
第5回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	上腕骨外科頸外転型骨折について復習を行い再度上腕骨外科頸外転型骨折について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	上腕骨外科頸外転型骨折について復習しておく。	
		各コマにおける 授業予定	上腕骨外科頸外転型骨折①				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸外転型骨折について整復、固定法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	上腕骨外科頸外転型骨折について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	上腕骨外科頸外転型骨折②		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨骨幹部骨折の復習を行い再度上腕骨骨幹部骨折について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	上腕骨骨幹部骨折について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折①		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨骨幹部骨折の整復、固定法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	上腕骨骨幹部骨折について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折②		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肩鎖関節脱臼について復習を行い再度肩鎖関節脱臼について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	肩鎖関節脱臼について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	肩鎖関節脱臼①		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肩鎖関節脱臼の整復、固定法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	肩鎖関節脱臼について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	肩鎖関節脱臼②		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肩関節烏口下脱臼について復習を行い再度肩関節烏口下脱臼について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	肩関節烏口下脱臼について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	肩関節烏口下脱臼①		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肩関節烏口下脱臼の整復、固定法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	肩関節烏口下脱臼について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	肩関節烏口下脱臼②		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肘関節脱臼について復習を行い再度肘関節脱臼について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	肘関節脱臼について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	肘関節脱臼①		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肘関節脱臼の整復、固定法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	肘関節脱臼について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	肘関節脱臼②		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	腱板損傷について復習を行い再度腱板損傷について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	腱板損傷について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	腱板損傷①		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復学(総論Ⅱ)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期 月2	教室名	302教室
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師の業務の基礎である「診察・治療・予防」を臨床現場を想定しながら理論的に学び、今後の学習にどのように応用活用できるか考える。						
《成績評価の方法と基準》						
素点:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第7版						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿い、講義・国家試験に準じた復習を行う。 講義で使用した口頭試問問題・四択問題を解く。						
《履修に当たっての留意点》						
総論は国家試験や柔道整復師業務において重要科目である。						
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	「人体に加わる力」の理解を深める。		柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲の予習・復習
		各コマに おける 授業予定	オリエンテーション 人体に加わる力			
第 2 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	「損傷時に加わる力」「痛みの基礎」の理解を深める。		柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲の予習・復習
		各コマに おける 授業予定	損傷時に加わる力 痛みの基礎			
第 3 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	「各組織の損傷」の理解を深める。		柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲の予習・復習
		各コマに おける 授業予定	各組織の損傷			
第 4 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	「各組織の損傷」の理解を深める。		柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲の予習・復習
		各コマに おける 授業予定	各組織の損傷			
第 5 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	「各組織の損傷」の理解を深める。		柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲の予習・復習
		各コマに おける 授業予定	各組織の損傷			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	「各組織の損傷」の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	各組織の損傷		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	「各組織の損傷」の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	各組織の損傷		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	「各組織の損傷」の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	各組織の損傷		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	「各組織の損傷」の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	各組織の損傷		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	「診察」の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	診察		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	「治療法」の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	整復法 固定法		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	「後療法」の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	後療法		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	「後療法」の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	後療法		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	「後療法」の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	後療法		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	「外傷予防」の理解を深める。	柔道整復学・理論編 改訂第7版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	外傷予防		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名		柔整臨床実技Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		3年生		学期及び曜時間	前期 火4	教室名	実習室2
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》							
軟部組織損傷の評価について理解し、実践する。							
《成績評価の方法と基準》							
実技試験及び記述試験、小テスト、レポート等にて評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版(メジカルビュー社)							
《授業外における学習方法》							
解剖学、機能解剖学の理解を深め、組織損傷の病態を考える。							
《履修に当たっての留意点》							
臨床を想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組む。							
授業の 方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回		授業を 通じての 到達目標	オリエンテーション		教科書、プリント、 PC	解剖学、柔道整復学の 復習、機能解剖学の自 己学習	
		各コマに おける 授業予定	オリエンテーション				
第 2 回		授業を 通じての 到達目標	下腿三頭筋損傷(肉離れ)について理解し、診察と検査法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
		各コマに おける 授業予定	下腿三頭筋損傷(肉離れ) 診察と検査法				
第 3 回		授業を 通じての 到達目標	アキレス腱断裂について理解し、固定法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
		各コマに おける 授業予定	アキレス腱断裂 クラメール副子固定				
第 4 回		授業を 通じての 到達目標	足関節外側靱帯損傷について理解し、診察と検査法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
		各コマに おける 授業予定	足関節外側靱帯損傷 診察と検査法				
第 5 回		授業を 通じての 到達目標	足関節外側靱帯損傷について理解し、固定法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
		各コマに おける 授業予定	足関節外側靱帯損傷 局所副子固定				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	足関節外側靱帯損傷について理解し、固定法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	足関節外側靱帯損傷 局所副子固定			
第7回	授業を通じての到達目標	足関節外側靱帯損傷について理解し、固定法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	足関節外側靱帯損傷 バasketウィーブテープ固定			
第8回	授業を通じての到達目標	足関節外側靱帯損傷について理解し、固定法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	足関節外側靱帯損傷 フィギュアエイト・ヒールロック固定			
第9回	授業を通じての到達目標	グループワークによる実技試験用シナリオ作成		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	全31項目のシナリオ作成			
第10回	授業を通じての到達目標	グループワークによる実技試験用シナリオ作成		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	全31項目のシナリオ作成			
第11回	授業を通じての到達目標	グループワークによる実技試験用シナリオ作成		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	全31項目のシナリオ作成			
第12回	授業を通じての到達目標	グループワークによる実技試験用シナリオ作成		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	全31項目のシナリオ作成			
第13回	授業を通じての到達目標	グループワークによる実技試験用シナリオ作成		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	全31項目のシナリオ作成			
第14回	授業を通じての到達目標	グループワークによる実技試験用シナリオ作成		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	全31項目のシナリオ作成			
第15回	授業を通じての到達目標	グループワークによる実技試験用シナリオ作成		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	全31項目のシナリオ作成			

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	スポーツ総論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	通年	教室名	302教室
担 当 教 員	生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士, NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》						
スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
Reference Book(日本スポーツ協会) トレーニング指導者テキスト(JATI)実技編						
《授業外における学習方法》						
授業に関連する記事や情報を積極的に意識的に見るようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について理解する。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングサイクル／構造論／目標論／手段・方法論・計画論			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について理解する。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングアセスメント①			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系について理解する。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングアセスメント②／トレーニングと休養のバランス			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	グッドコーチに求められる医・科学的知識について理解する。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する①			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 身体のしくみと動き／トレーニングの種類			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 呼吸循環器系の働きとエネルギー機構		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 体力トレーニングの原理原則		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	体力のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 トレーニングの種類		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	スキルトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スキルトレーニング】 スポーツバイオメカニクス		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	心のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 行動としてのスポーツ スポーツにおける動機づけ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	心のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 スポーツにおける動機づけ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	心のトレーニングについて理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 スポーツにおける動機づけ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	グッドコーチに求められる医・科学的知識について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する②		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	グッドコーチに求められる医・科学的知識について理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する③		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目についてまとめる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義演習
科 目 名		救急処置法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時限	前期 火・1限	教室名	302教室
担 当 教 員		奥出 一 貴	実務経験とその関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員、赤十字救急法指導員、NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復師ならびにスポーツトレーナーにおいて必要な救急処置を現場で実践できるように理解を深めていく							
《成績評価の方法と基準》							
1. 定期試験:70％ 2. レポート: 20％ 3. グループワーク中の態度・発表: 10％							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
日本体育協会 共通科目テキストⅠ 日本赤十字社 赤十字救急法基礎講習 日本赤十字社 赤十字救急法講習 配布プリント							
《授業外における学習方法》							
配布資料の読み込みと救急法に関心を持ち赤十字などがネット上で公開している救急法の方法について予習、復習をする。							
《履修に当たっての留意点》							
在学中の臨床実習、スポーツ現場実習において知識、技術共に最低限身に付けておかないといけない内容です。 実習に参加するためにも、また、夏休み期間中に基礎講習、救急法講座が開催されるため、しっかりと内容の理解に努めてほしい。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	応急処置の意味、トレーナーの役割、応急処置の基本的留意点等について理解できるようになる。		共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	トレーナーの活動について調べる。 トレーナーバックの中身について調べる。	
		各コマにおける授業予定	救急処置の基本的知識				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	心肺蘇生法の必要性や注意点を理解し気道確保、胸骨圧迫を実践することができるようになる。		共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	前回までの復習。 心肺蘇生法について調べる。	
		各コマにおける授業予定	救急時の救命処置1				
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	AEDの使い方や注意点を理解し実践することができるようになる。人口呼吸の注意点や方法を理解し実践することができるようになる。		共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	AEDについて機器や使用方法について調べる。 前回内容の復習。	
		各コマにおける授業予定	救急時の救命処置2				
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	心肺蘇生法の一連の流れを行うことにより、実際に現場で起こった際の対応力を身に付けることができるようになる。		共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	心肺蘇生法について復習し、一連の流れでできるように練習しておく。	
		各コマにおける授業予定	救急時の救命処置3				
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	外傷と障害の違い、炎症について理解することができる。		共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	上記8回分の内容の復習。 配布プリントの確認。	
		各コマにおける授業予定	外傷時の応急処置1				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	RICE処置やアイシングについて理解することができるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	三角巾に触れ感触を確認しておく。 赤十字がネットでアップしている三角巾の動画をチェックしておく。
		各コマにおける授業予定	外傷時の応急処置2		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭頸部・脊椎外傷時の搬送方法や体位変換について理解することができるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	三角巾のたたみ方の復習。 三角巾の本結びが完璧にできるように練習しておく。
		各コマにおける授業予定	外傷時の応急処置3		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	緊急対応計画や評価について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	スポーツ現場における救急処置について自身の経験を思い出す。 また、実際のスポーツ現場での救急処置について調べる。
		各コマにおける授業予定	スポーツ現場における救急処置		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	応急処置の必要性、心臓発作、脳卒中、熱中症、呼吸困難についての症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	心疾患、脳血管障害について調べておく。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置1		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	応急処置の必要性、心臓発作、脳卒中、熱中症、呼吸困難についての症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	アナフィラシキー、食中毒、薬物中毒について調べておく。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置2		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	低血糖、中毒、食中毒、薬物中毒、アナフィラシキーなどの症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	1つの競技を選択し、その競技中に救急処置が必要になった場合のシュミレーションをしてみる。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置3		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	救急体制の重要性和計画について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	たたみ三角巾を正確かつ迅速にできるよう練習する。 頭部の手当を練習しておく。
		各コマにおける授業予定	現場における救急体制		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	三角巾を用いたたたみ方、きずの手当、提肘ができるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	鎖骨骨折や足関節捻挫について症状などを調べる。 前回までの手当についての練習を欠かさずに行う。
		各コマにおける授業予定	きずの手当		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	三角巾を用いた鎖骨骨折や足関節捻挫の手当ができるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	血液に関する解剖、生理について教科書を予習し、理解しておく。 止血帯止血法で用いるターニケットについて調べておく。
		各コマにおける授業予定	骨折、捻挫の手当		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	上記14回の内容について復習を行い、テストにてアウトプットする事により、学習内容の到達度の確認と知識の定着を目指す。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 赤十字救急法講習 配布プリント	上記14回の内容の再確認、復習をしっかりとしておく。 配布プリントの確認。
		各コマにおける授業予定	まとめ・期末試験		